

# 道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成14年度 第4号

2002年11月27日

北海道立函館水産試験場室蘭支場

Tel: 0143-22-2327

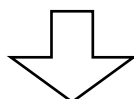
Fax: 0143-22-7605

## 道南太平洋スケトウダラ計量魚探調査結果

函館水試調査船金星丸により行われたスケトウダラ計量魚探調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：平成14年11月20日～11月25日
- ・調査海域：道南太平洋の水深100～600m海域

スケトウダラは海域全体に分散している  
反応の比較的強い海域は苫小牧沖および噴火湾口部  
分布水深は200～450m  
スケトウダラの平均反応量は10月の約3倍に増加



- ・魚の分布量は増加
- ・漁獲は12月以降上向く予想

1. スケトウダラは水深200～450m前後に幅広く分布していました（図1、3）。水深200～300m前後の反応は海底に接していましたが、それより沖側では昼間（H～T線）でも海底から離れて中層に分布していました（図3）。また、胆振東部から日高海域でも深度300mに連続した中層魚群が観察されました（図3）。これらは襟裳海域から連続して分布していることから、小型の未成魚が多く混じっている可能性があります。
2. 魚群反応は海域全体に分散していました。その中で、比較的反応の強い海域は、苫小牧沖（海区179）および噴火湾口部（海区184～185）でした（図1）。
3. 調査海域の平均反応量は、10月の約3倍に増加しました（図2）。
4. 平均反応量が10月調査よりも増加していることから、沖合いの中層に分布する魚群が浅みに入る12月以降漁獲が上向いてくると予想されます。また、魚群が海域全体に分散しているため、胆振、渡島両海域で漁獲が増加してくると考えられます。
5. 昨年同期と比較すると、平均反応量がやや低いこと、水深200～300mの反応には小型の未成魚が混じっていると考えられることから、12月以降の漁獲量は昨年より減少すると考えられます。
8. 水産試験場のホームページ上へのスケトウダラニュース4号の掲載は、機器更新のため、12月に入ってからとなります。ご迷惑をおかけしますが、ご了承下さい。

スケトウダラニュースのページ アドレス：

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/hakodate/muroran/sukeso/sukesonews.htm>

マリネット北海道トップページからもアクセスできます。

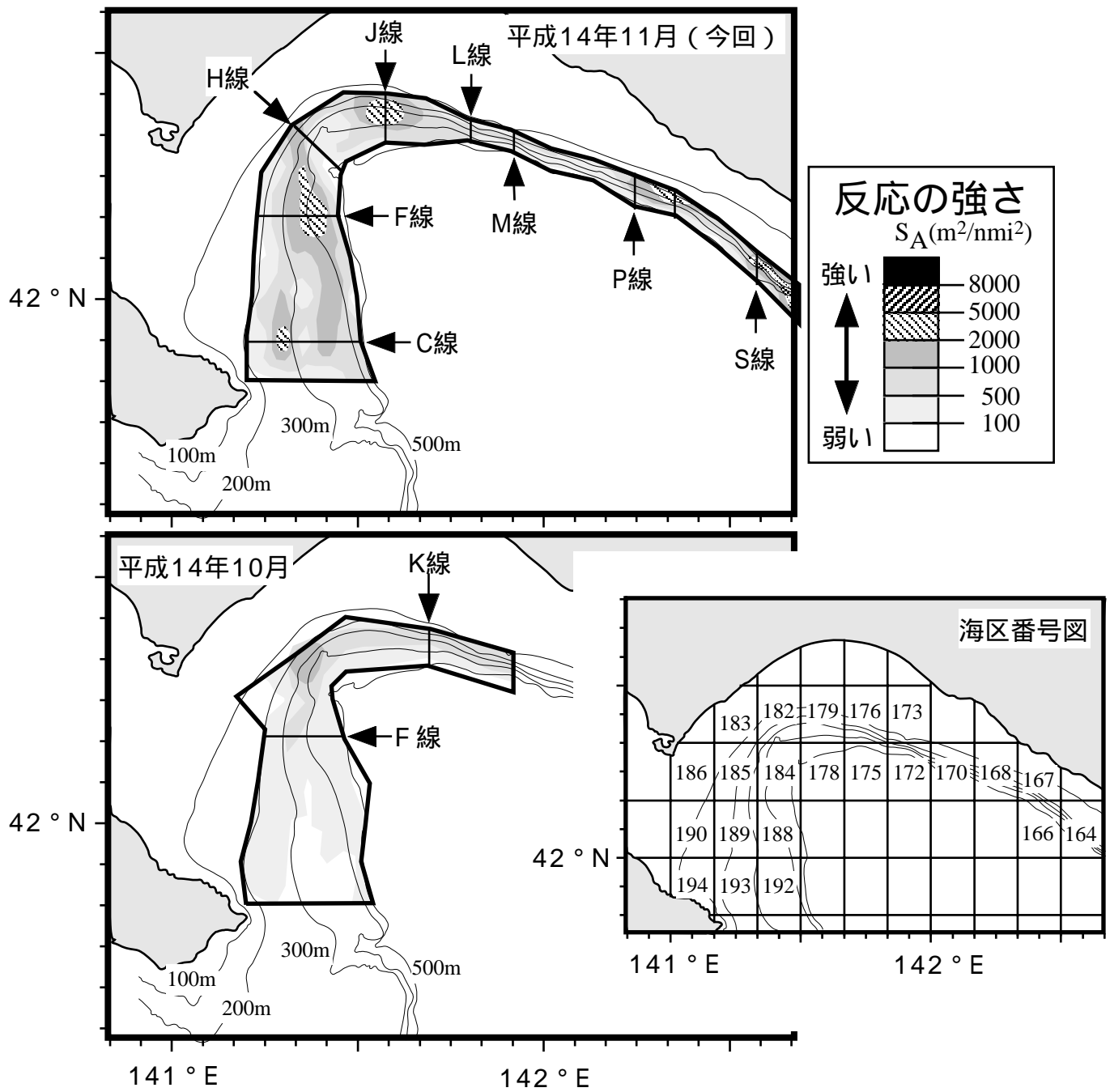


図1. スケトウダラの水平分布

黒枠で囲まれた部分が調査範囲。

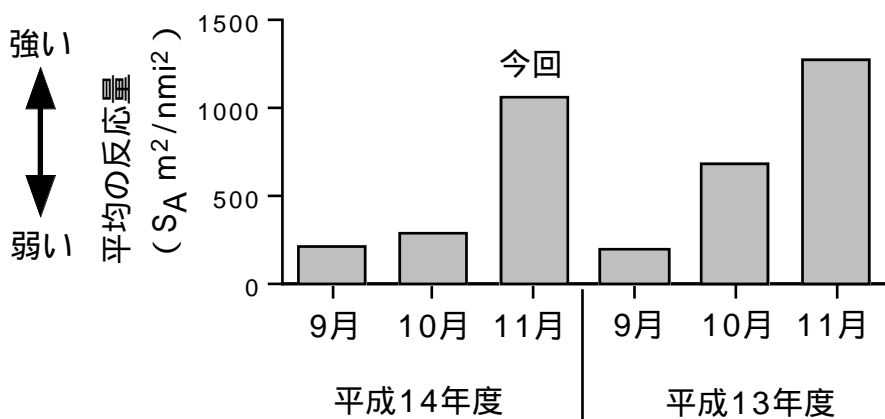


図2. 調査線C~Jまでの平均の反応量

昨年度の結果と比較するためにC~Jの範囲で平均。